



キラキラ☆中部っ子

《学校教育目標》

自ら気付き 人との関わりの中
で自分らしさを発揮しながら課
題解決に向かう 児童の育成

令和6年1月9日 文責 校長 小柳 英樹

～有田中部小学校の合言葉～ **やさしく(徳) かしこく(知) たくましく(体)**

明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお祈いします。

大晦日は雨で快晴とはいきませんでした。令和6年は曇り空の穏やかな幕開けだった気がします。しかし、能登半島地震や航空機事故等々、新年早々大惨事が起こり、心を痛める三が日となりました。

さて皆さんは、どんなお正月を過ごされましたか。コロナが5類に移行して、4年ぶりに感染症をあまり気にしなくてよいお正月だったと思います。

久しぶりにおじいちゃん、おばあちゃんに元気な姿を見せることができたか。いとことお泊まりができましたか。おせち料理をいっぱい頬張ることができましたか。

まず、何より嬉しかったのが、2学期の終業式で全校の子ども達に課していた【命を守る行動】ができていたことです。始業式では、集合時刻の厳守、待つ姿勢が大変素晴らしく嬉しく思いました。体調不良の子ども達を除いて、全員【笑顔で】【元気に】揃いました。御家庭で規則正しい生活を送らせていただいたおかげと感謝申し上げます。

いよいよ現学年のまとめの学期、そして次の学年へのステップの学期、つまり3学期が始まりました。お正月にどんな目標を立てたでしょうか。お子さんと、どんなことを語られたでしょうか。

「1年の計は元旦にあり」と言われます。3学期スタートのこの時期は、まさに自分自身の目標を問い直す、確かめる絶好の時期と考えます。まだ目標を立てていない人は、お家の人と相談しながら目標を立てるとよいですね。

“1日も休まずに登校する”、“国語の漢字を頑張る”、“友だちに意地悪な言葉を言わない”、“〇〇選手になるために、自主練習に取り組む”等々。

将来の遠い目標もあれば、学校や家庭生活での身近な目標でもよいので、何か立てられるとよいですね。自分に課すことで、竜のように昇ることができます。

ところで6年生は卒業式(3月15日)まで47日間、5年生以下は修了式(3月22日)まで51日間です。「1月に行く、2月は逃げる3月は去る」と言います。短い期間です。充実した3学期にするためにも目標を立てて頑張りましょう。

<1月の主な行事予定>

9日(火)始業式、午前中授業、給食なし 図書返本(~11日)	23日(火)第8回目読み聞かせ
11日(木)委員会活動6校時	24日(水)CRT検査(国)、給食週間(~30日)
15日(月)図書貸し出し開始	25日(木)CRT検査(算) 代表委員会6校時
16日(火)児童集会(1年生のクラス紹介) 福祉体験活動(4年生)	26日(金)【おにぎり弁当の日】
18日(木)クラブ活動(最終)6校時	30日(火)全校朝会

1月の生活目標 【名前札・帽子を身に付けよう】

冬休みに、少しだけ時間があったので、気になる本を読みました。『今日、誰のために生きる?』ひすいこたろう SHOGEN 著 廣済堂出版 という本です。

著者の SHOGEN さんが、働いていた仕事を辞めて、「ティンガティンガ」の絵を学ぶためにアフリカに行って、感じたこと、考えたことが書いてあるノンフィクションのお話です。

私たち日本人が忘れていること、効率性、能率性ばかりを追い求めて置き忘れていること、私たちの心の有り様が問われていること等々考えさせられる本でした。

この本に出てきた言葉を一部紹介します。

「ショーゲンの言葉には、体温が乗っかっていないから、私には伝わらない」

忙しさや面倒くささで“後で”や“分かった。分かった”と気のない返事をしている私がありました。相手にとっては、今という大事な瞬間に話したいのだと思います。私も自分時間ではなく、相手時間や相手の立場を考えて話を聞き、伝えようと思いました。

「ショーゲン、いい作品は、心に余裕がないとできないよ」

つつい一生懸命にするあまり、計画している時間をオーバーしたり、オーバーワークして体調を崩したりしている日本人。時にはゆっくりゆったりして、仕事を切り上げる、諦めることも大切です。

「大切なのは、感謝の気持ちを伝えること」

まさにその通り。私自身、恥ずかしさが先に立ち、感謝を伝えることができてない自身があります。“すみません”より“ありがとう”の言葉をより多く使いたいです。私たちが相手のできなかったこと、失敗したこと等、少し意識過剰に反応し、揚げ足とりになっているところがあるのかもしれませんが。また強い口調で相手を責めたり、相手の不備を心ない言葉で指摘したり、そんな社会、世の中になっている気がします。

(悪いことをしていなくても)“すみません”が先に口をついて出てくるのかもしれませんが。

“ありがとう”の文化を咲かせましょう。私たち大人から。有田中部小学校から。